

ACT!
NOW!



東成瀬村でデイサービス等の介護事業を経営する「株式会社 風鈴」。

施設の周りを木々や川が囲み、窓からは山々も見渡せる自然豊かなこの施設は、利用者と職員がのびのびと過ごす姿が印象的だ。その背景には、景観の素晴らしさだけでなく、利用者と職員との間で「与える、与えられる」が相互に交わされる関係性があった。



(写真上)農業のほかにも屋内で手を動かしながら談笑する利用者。

(写真下)施設の前には自然豊かな川や木々が広がり、素晴らしい景観が印象的。



株式会社 風鈴

代表取締役
佐藤 一人 Sato Kazuto

〒019-0801
東成瀬村田子内字長瀬51番
TEL.0182-47-3522
<http://higashinaruse.jp/>

利用者 と職員が 与え合える 関係性 とともに 耕す未来。

ともに取り組む農業

この施設の取り組みで象徴的なのが農業だ。5年ほど前から、利用者と職員がともに米や野菜を作っており、午前中は圃場で作業をしている。

「利用者さんの多くが長年農業に携わってこられた方。彼らからは技術はもちろん、『〇〇の花が咲いたら何をする時期だ』など、この地で暮らしてきたからこそその知恵を教わることもあります」と、代表の佐藤一人氏。毎年の田植えは利用者と職員の全員が参加し、泥んこになりながらもみんなで楽しんでいる。

地域外へ向けた仲間づくりを

昨年の米の収量は約300kg。その一部をクラウドファンディングを通じて販売したところ、全国から反響があった。返礼品には米とともに稲藁で作ったリースを添えたが、その作り方も利用者が教えてくれた。

「利用者さんにも役割があることが大事だと思っています。明日の話が一緒にできることがやる気に繋がっていくんですね」と佐藤氏。必ずしも楽してもらうだけが労りではないのだ。

東成瀬村は高齢化が進み荒地も増えている。しかし、この環境を守るためには圧倒的に仲間が足りない。取り組みを伝え、距離に関係なく仲間を募っていこうと、よろず支援拠点を活用しSNSでの発信のアドバイスを受け、情報発信にも力を入れている最中だ。

「風が強すぎても弱すぎてもいけない、ちょうどよいところで良い音が鳴る風鈴のように」と名付けられた施設名。これまでとこれからの技術や知恵を持ち寄ることで地域と人が充実していくことを願う。